

S4-3

造血細胞移植を受けて退院した子どもたちのフォローアップ

岩崎 美和

東京大学医学部附属病院 看護部 小児看護専門看護師

治療の進歩に伴い、多くの小児がん患者が病気を克服して長期生存できるようになっている。その一方で、小児がん経験者の長期予後や様々な晩期合併症が明らかになってきたことから、小児がん医療において長期フォローアップが不可欠となっている。特に、重大かつ特有な合併症の多い造血幹細胞移植を受けた患者に関しては、フォローアップの重要性が高いことから平成24年度に『造血幹細胞移植後患者指導管理料』が設定され、多職種連携によるチーム医療が推進されている。

当院では平成27年4月に、成人および小児の造血幹細胞移植後フォローアップ外来を開設した。フォローアップ外来では医師と看護師が協働でGVHD (graft-versus-host disease: 移植片対宿主病) の評価、セルフケアの指導、晩期合併症スクリーニング、二次がん予防指導などを行っている。また、幼少期に発病した患者も多いため疾病理解に関する教育や、さらには学校、進学、就職、生殖に関する相談なども行っている。医師、看護師だけでなく薬剤師や栄養士、心理士など多職種と連携しながらフォローアップを推進することで、幅広い視点での評価や支援が可能となってきている。

フォローアップ外来に通院する子どもたちのQOLは、移植直後は体力やGVHDによる症状など身体的側面に大きく影響を受けているが、次第に学校生活への適応や友達関係などの心理的側面へ、そして進学や就職、妊娠などライフステージに応じて社会的側面へと変化している。このように様々な状況にある子どもたちのQOLの向上を目指して、東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 家族看護学分野の教員らとも協働しながら、実践・研究に取り組んでいる。

当院のフォローアップ外来は開設してまだ1年であり課題も多いが、今後の飛躍のために造血幹細胞移植を受けた子どもたちのQOLと、その向上を目指したフォローアップの実際と展望について報告したい。